

第2回 まちづくり推進検討委員会 - 議事録 -

日時：平成19年12月4日(火)

13:30～16:00

場所：大月市民会館 4階

1. 開会

2. あいさつ

【委員長】

- ・ 皆さんこんにちは、12月に入り、お忙しい中でのご出席ありがとうございます。
- ・ 議事次第にあるように、今日はこれまでの本委員会の活動を含めた内容の報告と、その内容を踏まえての協議事項「中心市街地における賑わいづくりの基本的方向性」について、みなさんからご意見をいただきたいと思う。
- ・ 報告が主になっているかと思うが、できるだけ協議に時間を割けるように委員会を進めたいので、皆様のご協力をお願いしたい。

3. 第2回検討委員会

(1) 報告事項

【委員長】

- ・ さっそく内容に入りたい。4点の報告事項があるので、資料に沿った形で報告をお願いしたい。
- ・ 資料1の説明をお願いしたい。

第1回検討委員会議事録について(資料1)

【事務局】

- ・ 第1回目の委員会は、5月28日に総合福祉センターで開催させていただいた。
- ・ 議事録の内容は、本日の案内とともに事前に送付するべきであったが、本日の委員会でお目通しをしていただく中で、ご承認をいただきたいと思う。
- ・ なお、まちづくり推進検討委員会の議事録は、大月市役所ホームページの大月駅周辺整備事業「まちづくり推進検討委員会」内に掲載させていただきたい。
- ・ 委員会議事録の公開については、第1回まちづくり推進検討委員会の中でご承認いただいている。
- ・ 議事録の内容は、日が経っていると思うが、ご一読いただく中でご承認をいただきたいと思う。

【委員長】

- ・ 私も目を通したが、皆さんで一度読んでいただき、お気づきの点等あれば事務局に申し出ていただきたい。
- ・ 資料1の2ページの(3)協議から目を通していただきたい。
- ・ 基本的には事務局で用意していただいた資料の説明があり、その内容について質疑する、

という形で議論を進め、最終的には提案されている部分の承認を、まちづくり推進検討委員会で行った、という流れになっている。

- ・ 最初に、大月駅周辺地区都市再生整備計画書の説明がされており、整備計画の大きな柱となっている部分をご説明していただき、これについては皆さんが承認しているということになっている。
- ・ それから、大月駅周辺地区都市再生整備計画の中で位置付けられている委員会の今後の活動予定（案）についての説明があり、これについては質問があった。
- ・ この中では後に行った視察の話であるとか、駅前景観をどのような形で検討していくかということが示された。
- ・ それから、賑わいづくりに向けた駅前空間のあり方についての説明があり、これに対しても質疑応答という形で議論を行った。
- ・ このあたりは整備のあり方というか、駅前広場や駅前空間をどのような形でハード、あるいはソフトの両面で整備していくべきかということで、これについても今年度の活動の中で詰めていくという話である。
- ・ 最後は、整備の進め方の中で提案されている作業部会の設置についての内容である。山梨大学の石井先生を部会長とした作業部会を設け、景観まちづくりという点での議論をしていただくということを皆さんに承認していただいたという内容になっている。
- ・ おおまかな流れはこのような形でまとめさせていただく。
- ・ 言葉の言い回し等お気づきの点があれば、事務局に言っていただきたい。
- ・ 第1回まちづくり推進検討委員会の議事録は承認したということですのでよろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

松本視察（9月26日実施）について（資料2）

【委員長】

- ・ それでは、報告の2つ目に移りたい。
- ・ この内容は2、3と関わる内容だが、これまでまちづくり推進検討委員会の活動をしてきた。
- ・ その1つとして先進事例である松本市の視察を行った。その内容の報告である。
- ・ 事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料2：大月市まちづくり推進検討委員会・同作業部会合同 先進地事例報告書 ダイジェスト版 説明）

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 何か、資料2についてお気づきの点がございましたらご指摘いただければと思う。
- ・ 当日は天気にも恵まれ、委員会からも沢山の方にご参加いただき、良い視察であったと思う。
- ・ たまたま「蔵の会館（中町通り）」の前で、地場産の野菜を売っている時間に遭遇し、その光景を見ることができ、地域の人々が手作りのイベントに参加されているような印象

を受けた。

- ・ また、景観についてもきめ細やかなデザインや修景的な工夫をされており、大月駅前の空間作りの参考になったのではないかと思う。
- ・ そのような意味で、非常に有意義な視察であったと思う。
- ・ 内容についてもう少し書き加えておいたほうが良いと思う点があれば、事務局へご指摘いただきたい。
- ・ 資料2は「ダイジェスト版」となっているが、要約していない原本があるのか。

【事務局】

- ・ はい。もう少し、写真や資料が多い内容となっている。
- ・ 基本的な内容については、ほとんど変わっていない。

【委員長】

- ・ 市民の皆さんが閲覧したいと思った場合は閲覧可能か。

【事務局】

- ・ はい。申し出ていただければお見せすることができます。

【委員長】

- ・ ホームページ等で閲覧若しくは、ダウンロードできないのか。

【事務局】

- ・ はい。今のところ、印刷物しかない。

【委員長】

- ・ 市役所にて閲覧できるということか。

【事務局】

- ・ はい。

【委員長】

- ・ 基本的には委員会で使う資料ではあるが、ダイジェスト版及び基版は市役所にて閲覧できる旨をホームページ上に提示したほうが良いと思う。

【事務局】

- ・ はい。わかりました。

【委員長】

- ・ 資料2の報告については以上でよろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

ワークショップ（11月5日開催）について（資料3）

【委員長】

- ・ 資料3は11月5日に開催したワークショップについてのご報告である。
- ・ これは本日の協議事項にも関連する。
- ・ 事務局からご報告をお願いしたい。

【事務局】

（資料3：まちづくり推進検討委員会 ワークショップ「賑わいのあるまちづくり」分科会内容・全体討論会議事録 説明）

- ・ 非常に活発な意見が出され、今後の大月駅前、大月駅周辺の整備という中で、参加された皆様には真剣にお考えになっていただけていると強く感じた次第である。
- ・ 議事録等の内容については市のホームページに掲載し、市民の皆様には公開されている。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 記録のまとめ方および内容について、分科会の座長を務められた先生方から確認のコメントをいただきたい。
- ・ 第1分科会の座長を務められた石井先生よりコメントをお願いしたい。

【石 井】(ワークショップ第1分科会座長)

- ・ 第1分科会の座長をさせていただいた石井です。
- ・ ワークショップの報告に関しては確認済なので、特に問題はない。
- ・ 全体的に明確な答えが出るというよりは、様々な意見のなかでこれからどのようにしていけば良いのか、という程度の議論の内容であったと認識している。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 第2分科会の座長は、作業部会の専門委員である和田氏が務められた。
- ・ 本日は傍聴者としてお越しいただいている。
- ・ 本来、傍聴者は発言できないこととなっているが、第2分科会の座長であったという経緯があったため、委員会として確認する意味で、ご発言いただきたい。

【和 田】(ワークショップ第2分科会座長)

- ・ 第2分科会の座長をさせていただいた和田です。
- ・ ワークショップの報告に関しては確認済なので、特に問題はない。
- ・ 分科会の中では、「やさしさ」、「溜まり場」、「休憩」という言葉がキーワードとなっているのではないかと確認できた。
- ・ できればもう少し時間を長くとった中でワークショップができたなら良かったと感じた。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 急にご発言をいただくこととなり、申し訳ございませんでした。
- ・ 第3分科会の座長である、永岩先生はいかがか。

【永 岩】(ワークショップ第3分科会座長)

- ・ 第3分科会の座長をさせていただいた永岩です。
- ・ 内容については、まず具体的なイベントとしては歩行者天国が挙げられた。ただ、イベントの開催を行うためには、どのような母体を中心にしていけば良いのか、という点については具体的な議論が活発に行われている状態にはならなかった。その点については今後の検討課題になると思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございました。
- ・ 各分科会の後、私が議長で全体討論を行った。
- ・ その中では、各分科会の内容についての発表とデザインアドバイザーの先生からコメ

ントをいただき、皆様と全体的な質疑応答を行ったという形になっている。

- ・ ワークショップ全体に関しては、限られた時間の中でまとまった結論付けというのはどの分科会においても難しかったとは思う。
- ・ 幸い、どの分科会でも活発にご意見が出ていたようで、その中で、ワークショップを継続的に行うことの重要性や、このような機会を設けることで色々な問題やアイデアが生まれてくる、ということ認識する良い刺激となるワークショップではなかったかと思う。
- ・ 資料の最後に書いてあるとおり、ワークショップで議論したことは、まちづくり推進検討委員会で反映させ、話し合いを進めていきたいと結んでいる。
- ・ これを受け、まちづくり推進検討委員会ではより良い計画づくりのための検討をしていただきたい。
- ・ 以上がワークショップの報告になるが、委員の皆様からは何かあるか。

【委員】

- ・ 特になし。

【委員長】

- ・ 資料3の内容については、本日の議論の中でもまた使うかもしれない。
- ・ 以上でワークショップの報告を終了したいがよろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

作業部会（第4回を11月20日に開催）について（資料4）

【委員長】

- ・ ワークショップの後11月20日に、本委員会で設置が認められた作業部会の第4回部会が行われた。作業部会での検討状況についての報告をお願いしたい。
- ・ 本日は作業部会の活動状況について、これまでの中間報告をしていただくこととなっている。
- ・ 部長である石井先生から報告をお願いしたい。

【石井】（作業部会部長）

（資料4：作業部会の活動状況について（中間報告） 説明）

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 作業部会のこれまでの活動状況について、特に景観形成のルールづくりという点で第2回以降、具体的な内容について検討を進めているという内容である。
- ・ 第4回が11月20日に行われ、まだ議論の途中ということである。
- ・ 今後のまちづくりと景観形成ということとの兼ね合いで、どのようなスケジュールで、どのような内容のものに高めていくか、ということも併せて委員会として議論し、それをまた作業部会での議論に役立てていただければと思う。
- ・ 協議事項のところ、作業部会の検討のあり方についてもご意見いただければと思う。
- ・ 石井先生からのご報告について何かご意見等があればお願いしたい。いかがか。
- ・ 私が報告を聞く中では、まだルールを作る段階なのだと思うが、ルールを守っていく

仕組みづくりについて検討する必要があると思う。

- ・ これは非常に大事なことである。
- ・ 街の条例として制度化する方法もあるし、自主規制をするという方法もある。これについて今後考えていく必要があると思う。
- ・ あまり悠長に考えている時間がないとは思いますが、個々の区割りが決まっておらず、部会内での意思決定がされていない状況だと思う。
- ・ スケジュールについて部会内で議論はされているのか。

【石 井】

- ・ 部会は当初の予定だと、あと1回行うこととなっている。
- ・ 部会内ではもう1回作業部会の回数を増やす話が出ている。
- ・ ただ、先ほど説明したように区割りが決まらなると議論ができないことを踏まえ、区割りが決まった直後くらいに部会を行うこととした。
- ・ ルールを守っていただくということに関しては、地権者さん等が13人程度しかおらず、またそれほど大きな街で全体を統一するという話とは違うので、そこまで難しい話ではないだろうという意見をいただいている。

【委員長】

- ・ ルールの内容についてきちんと理解していただいて、結果として決めたルールが守られるように決定していくという方法で良いということか。

【石 井】

- ・ はい。

【委員長】

- ・ わかりました。
- ・ 他に作業部会の活動状況についてご意見があるか。

【委 員】

- ・ 特になし。

【委員長】

- ・ では、作業部会の活動状況の報告を受けたということにしたい。
- ・ これで、報告事項については終了したい。
- ・ 委員の方で、報告に関してご意見のある方はいるか。

【委 員】

- ・ 特になし。

(2) 協議事項

【委員長】

- ・ 続いて、協議事項に移りたい。
- ・ 中心市街地における賑わいづくりの基本的方向性についてということで、視察やワークショップ、作業部会の検討など、委員会として色々な活動をしてきているが、今後の賑わいづくりに関わる話で大枠の方向性をそろそろ決めないとならない。
- ・ 本日は資料5にあるように、まだ叩き台といえるほどのものでもないが、大枠の方向の

提案をさせていただいて、それを中心に議論していただければと思う。

- ・ 資料5の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料5の1枚目：中心市街地における賑わいづくりの基本的方向性について 説明)

(資料5の2枚目：駅周辺商店街におけるイベント、取り組みの事例 説明)

(資料5の3枚目：大月駅前広場平面図 説明)

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 資料5の内容について説明していただいた。
- ・ 議事との関連だが、本日の協議事項として、中心市街地の賑わいづくりをどのような形で取り組んでいくべきか、という基本的な方向性について委員会で詰めていこうということが趣旨である。
- ・ これを考えていくうえで、資料5の1、2、は押さえておくべき背景である。
- ・ 資料5の2に書いてあるように、少子高齢化や環境問題というのが考えておかなければならない問題ということから導き出された方向性が3つある。
- ・ 特にアンダーラインが引かれている「大月駅周辺地区都市再生整備計画では大目標を『交通結節機能の強化を契機にした、安心・安全で快適な生活環境の創出と中心市街地活性化』としている。」、このようなことを目標としているので、これと整合した形で、より具体的な中心市街地の賑わいづくりを考えていくことが基本となる。
- ・ 皆さんにご意見をいただきたいのは、これまでの活動やワークショップに基いて、賑わいづくりのための方策という形で、事務局が提案している3点の基本的な方向性についてである。
- ・ これらについて本日はご意見をいただきたい。
- ・ その意味でこの3つで良いのかどうかと、別の切り口があるのではないかとということ議論していただきたいと思う。
- ・ それから、賑わいづくりという点においてはどちらかと言うと、ハードな施設整備による内容よりも、むしろ駅周辺のハードな整備を受け皿にしたソフトな取り組みの内容が多い。
- ・ 地域の人がどのように賑わいづくりに参加できるか、中心市街地の中でできる色々な取り組みを考えたいので、近年、駅を中心とした整備を行った都市を参考にしてはどうかということで、金沢駅周辺の事例と福井駅周辺の事例について、特に地元で行われているイベント及び取り組みなど、ソフトな施策メニューについてご紹介していただいた。
- ・ このような具体的に行われている事例を見ながら、大月市において賑わいづくりのための方策としてどのようなものが中心的な、あるいは基本的なものとして適切かということその中で議論していただければと思う。
- ・ 最初に趣旨を説明せずに資料5の説明をお願いしてしまったので、戸惑われたかもしれないが、そのような意味合いで資料を作って説明していただいたということである。
- ・ まず、議論に入る前に資料及び私の補足的な説明についてご意見、ご質問はあるか。

【委員】

- ・ 主婦やサークルの方に大月駅周辺整備に関するお話をしたとき、一番の希望としては、駅周辺に小さくても良いので食料品店が欲しいという声があった。また、駅周辺で空閑地があればマンションを建設し、1階部分を店舗にしたらどうかという意見もあった。
- ・ 今は駅前よりもダイエー付近の方が人通りが多いが、ダイエーまで行くのは少し遠い。
- ・ マンション等新しい建物ができれば人口も増えるし、駅周辺の賑わいに繋がるのではないかと思う。

【委員長】

- ・ 今のご意見について資料5の内容との関係で位置付けさせていただければと思うが、3の「来街者の増加による活性化」と「少子化、高齢化に対応した活性化」という項目にあてはまるのではないかと思う。
- ・ 「来街者の増加による活性化」のところでは、来街者を観光客や来訪者だけでなく、地域の住民も中心市街地に来る方と考えるほうが良いというご意見だと思う。
- ・ それから、来街者が何を目的で来るかと考えた場合、観光客は当然観光であるが、地域の住民は日常生活の中で、特に買い物を考えた場合に、中心市街地で買い物ができる環境を作って欲しいというご意見だと思う。
- ・ 具体的には空スペースを利用し、日常的な食料品を販売するようなところを整備していけば、買い物の利便性が上がるのではないかということだと思う。
- ・ それとともに長期的な意味では、職住近接というか、駅近で住める場所を確保していけば、人口も増えるし、結果的に来街者も増えるのではないかという話だと思う。
- ・ もう一つは高齢者の移動に伴う円滑化をバリアフリーとして掲げられており、ユニバーサルデザイン等の話なので、「少子化、高齢化に対応した活性化」という部分に当てはまるのではないかと思う。
- ・ ただ、「少子化、高齢化に対応した活性化」では、「活性化」という形で表現されているが、移動の円滑化とか、ユニバーサルデザインを徹底させることで、より多くの人が中心市街地で活動できるようにしていく、という表現に変えたほうが良いかもしれないというご意見だと思う。
- ・ このように理解したが良いか。

【委員】

- ・ はい。

【委員長】

- ・ 色々なご意見があるので、少し時間をとって、皆さんそれぞれの受け止め方なり、他の意見等をいただきたい。
- ・ 他にあるか。

【委員】

- ・ 第4回部会についてお聞きしたい。石井先生にアドバイスをいただきたい。
- ・ 私たちは大月住民として、幼少のときから丸太づくりの駅舎と親しんできた。
- ・ 自分の子供や孫たちに、大月駅は、昔こういう駅だったとか、このような良さがあったとか、そのようなことを継承できるような形であれば、残していただきたい。

- ・ 作業部会の中で、そのような意見や考え方があるのかお聞きしたい。

【石 井】

- ・ 結論から言うと、駅舎および駅前広場のデザインは作業部会の担当外である。ただし、駅の雰囲気と街の雰囲気をどのように合わせるかという話はしている。
- ・ 以下で、作業部会の議論とは外れた形でお話させていただく。歴史や人々から親しまれたものを残すということは各地で行われている。方法の一つとしては、形をそのまま残す方法がある。駅で言うと、東横線の田園調布駅や中央線の国立駅では、工事中は古い駅舎をどこかに移転させておき、工事が終われば元に戻し、シンボリックに残されている事例がある。また、別の方法としては、昔の形のイメージとか材料を新しい建物に持ち込んで、かつての記憶を一部分からイメージしてもらう方法がある。
- ・ 今回は、直接ものを残す方法ではなく、新しいイメージと昔のイメージの融合を図っているデザインの解釈だというように作業部会では理解し、それがなるべく活かせるような建物のデザイン統一をしようという議論にはなっている。
- ・ 駅そのもののデザインについては、今日は清水先生がいらっしゃっているので、直接お聞きになったほうが良いと思う。清水先生にお願いしたい。

【委員長】

- ・ 今の石井先生のコメントとも関係があるが、おそらく作業部会のミッションとしては駅及び駅前広場の空間デザインと、全体的な景観の収まり具合、統一性や連続性は作業部会の検討項目に含めていただきたい。
- ・ その前提となるのが駅舎、駅前広場に関する、先ほどの委員さんからの懸念というか検討の話だと思う。
- ・ せっくなので、傍聴に来ている清水先生にお話をいただきたい。

【清 水】(デザインアドバイザー)

- ・ この件に関しては、昨年も委員会で議論した。
- ・ 駅舎の保存は、そのまま残す、イメージを残すなどの方法がある。
- ・ 昨年の議論の際に、何が大事なのかという話をした。形が大事なのか、哲学または思想が大事なのか。
- ・ 残すとしたら、木材をベンチに作り変えたり、写真や資料にして残す方法がある。
- ・ 何がふさわしいかを皆で話し合った結果、まずは今の駅舎の状態が問題であった。木材部分はペンキで塗られ、木の質感は感じられず、残すに値する物なのか疑問であった。
- ・ 50年後には残した意味が分からなくなるものでは、残さないほうが良い。
- ・ そうなるとこの駅舎を作った思想が大事なのではないかと思った。
- ・ 大月の場合は木材を組み合わせたような造型であると考え、それに沿った形の駅を作ったら良いと思った。
- ・ 残すのであれば一番状態の良い時を写真で残すのが良いと思った。
- ・ あとはログハウスのイメージをどこかに取り入れることはあり得る。
- ・ このようところで皆さんには納得していただいている。
- ・ 皆さんとしては愛着のある建物だから、そのまま残したいと言う方が多いと思うが、私として良い形で残す方法はこれではないかと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 先ほどの委員さんのご意見は、賑わいづくりの方策の中だと「大月駅などと一体となった景観整備による魅力ある街並みづくり」という部分にあてはまる。
- ・ これは、駅舎及び駅前広場から繋がる形で、中心市街地の景観整備がされていないとまらないということである。
- ・ 駅及び駅前広場には皆さんが非常に愛着あると思うが、その魅力化が、ひいては商店街への集客性を高める材料を提供することとなっている。
- ・ その場合に、どのような形のデザインコンセプトにするかというのは駅舎及び駅前広場だけではなく、中心市街地の中の壁面位置とか、作り方、見え方、色彩を含めて考えていく必要がある。
- ・ 作業部会ではそのあたりのご意見も十分考えながら統一性のある街のルールづくりの中身を詰めていただければと思う。
- ・ よろしくお願ひしたい。
- ・ 他にご意見はないか。

【委員】

- ・ 資料5の2にある、「自動車への過度の依存から脱却した」という部分については、全く逆ではないかと思う。
- ・ 先ほど委員の方より、中心市街地に食料品店がほしいとの話があったが、もちろんそのような施設があれば人は集まってくると思う。しかし、これがなぜ「自動車への過度の依存から脱却した」ということになるかが分からない。
- ・ 大月には山間の地区もあるので、そこから来る方々は車を利用する。大月は東西に広く、交通網の十分な発達や道路自体の整備も進まないのに、このような表現をするのはどうかと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 大変重要なご意見である。2のところは少し簡略的に書きすぎている部分があり、このような表現では誤解を招いてしまう場合がある。
- ・ 「自動車への過度の依存から脱却した」の「脱却」という言葉が強い表現になってしまっているが、自動車が中心のまちづくりではないということが趣旨であると思う。
- ・ それであれば自動車以外で、例えば歩いて移動できることを前提とするのか、公共交通を利用することを前提とするのか、具体的に自動車の代わりになるものを説明するなり、あるいはそれを中心に方向性を捉えているということを明示していかないと、やりたいことと、できていくものが正反対になってしまうというご指摘だと思う。
- ・ これはごもっともだと思う。
- ・ 私はそのように理解したが、事務局の意見を聞きたい。

【事務局】

- ・ 少し表現が足りなかったと思う。
- ・ 資料5にまとめた意味合いとして具体的に言うと、現在中心市街地に住んでいる方が、

買い物をするのにわざわざ郊外まで自動車で行く。

- ・ これは中心市街地に駐車場がないことだけでなく、店そのものがないためである。
- ・ これをどうにかしたいというのが真意であり、そのためには、皆さんが住んでいる近所に歩いて買い物に行ける場所があったり、歩けない距離であればバスを利用して、あるいは電車を乗り継いで買い物ができるようにしなければならない。
- ・ 大月駅の整備が行われれば、駅自体が新しくなり電車を利用しやすくなる。また、駅前広場（バス、タクシー）の利便性がさらに高まるので、これを利用できないかということである。

【委員長】

- ・ もう少し言ってしまうと、2の一番目の項目は外してしまってもいいと思う。
- ・ 色々な所で議論されているコンパクトなまちづくりと言うのは非常に意見が分かれている。全てコンパクトシティという言葉でくくれるのかということがあるし、大月市の今の状況で、市の上位計画等で示されているということであれば、それに沿った形で定義付け、意味付けができる。私の判断では、まだそこまで確立されたものでもなさそうだと思う。このような言葉を安易に使ってしまうと、素朴な疑問から端を発して、それに付随する説明をしなくてはならなくなる。
- ・ むしろ、2で挙げられている中で、アンダーラインが引かれている「交通結節機能の強化」という部分は、まさに駅と駅前広場の整備を示しており、そのような公共交通の結節機能の強化をきっかけにして、安心・安全で快適な生活環境を創りあげていき、結果としてその周辺である中心市街地が活性化や賑わいを取り戻していきたい、ということだけで十分だと思う。
- ・ 委員の皆さんはご意見いかがか。

【委員】

- ・ 私は委員会に2回（昨年度も含む）参加できなかったりしたが、先ほどの委員さんが指摘された資料5の2にある、「自動車への過度の依存から脱却した」という部分については疑問に思った。
- ・ 子供が障害を持っていることと、山間に住んでおり、バスの本数が少ないことから、必要に迫られて自動車を利用しているので、自動車を利用する人のことも考えていただきたい。バスの本数が増えても子供が障害を持っているため、バスを利用するのは難しい。そういうことも考えていただければありがたいと思う。
- ・ あと、障害者自立支援法というのがあるが、平成23年度までに制度の体系等が変わるので、まだどうなるか分からないが、福祉の方向性では、軽度の障害者なら地域の支援を受けながら生活していくという流れになってきている。
- ・ これからグループホームができたりすると思うし、店舗等を整備するだけでなく、利用しやすさを考えた整備をしていただきたい。
- ・ このような会に出て思うことは、「少子化・高齢化」という言葉は（資料上で）よく目にするが、「障害」の文字がないことに疑問を感じる。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。

- ・ 決して偏った議論をしようというわけではないが、ご指摘のとおり、2のところでは「誰もが安全で安心して暮らせるユニバーサルデザインのまちづくりを行う」と謳っている。
- ・ 障害者の方も健常者の方も含め、ユニバーサルデザインを目指しているということであるので、そのような議論が無視されているということではない。
- ・ しかし、具体的な方策となってくると、ここでは賑わいづくりを主にしているため、いつのまにか言葉の使い方が消極的な取り扱いになってくる。
- ・ したがって議論の中に方策として出てきた中に、最終的には基本としてのユニバーサルデザインとか高齢者や障害者の方に対するケアとか、別の追加的な施策ということも謳っていかねばならない。
- ・ このあたりも今後の賑わいづくりの方策の留意点、あるいは注意しなければいけない事項ということで最終的にまとめていければ良いと思う。
- ・ 本日の議論としては中心市街地の賑わいをどうするかということなので、バリアフリーの問題とか、障害者のケア等の、安心・安全な生活環境の実現という部分は別の柱という取り扱いにしたいと思う。
- ・ 資料5の3で3つ挙げられている言葉の中で、「活性化」という言葉があるが、「賑わいづくり」がいつのまにか「活性化」となっている。ここでは賑わいづくりの方向性について議論している。「活性化」になると少し意味が違うので、「賑わいづくり」と統一していただきたい。
- ・ 後は、金沢とか福井のような事例を参考にさせていただく中で、大月市ならではの、あるいは大月市にとっての賑わいづくりという部分で、特に駅や駅周辺の整備を上手く活かした格好で出来ることはないのかどうか。このあたりの提案が他にあればお聞きしたい。
- ・ 先ほど事務局で紹介していただいた事例が表にまとめられているので、この中で自分達にも出来そうなことや、提案でも結構なので取り組みについてもご意見をいただきたい。いかがか。

【委員】

- ・ 私は駅前で商売をしており、「大月駅前を考える会」という立場で参加させていただいている。私の立場から意見というよりは質問をしたい。
- ・ 資料5の3に「駅や駅前広場などのオープンスペース」とあるが、オープンスペースとは具体的にはどの部分を指しているのか、図面上で示していただきたい。
- ・ もう一つは、オープンスペースの利用の仕方を考えた場合、個人レベルでの使用ができるのかどうかということ、駅の管理者からお聞きしたい。

【委員長】

- ・ 先に事務局からオープンスペースの説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・ まず一つは、南北自由通路がある。幅は6mあるので、通行者への支障がないよう考慮されていれば、駅利用者楽しんでいただくような展示等は可能である。
- ・ あるいはそこで何らかのイベントを行うことも考えられる。
- ・ また、南北の駅前広場がある。南口については特に駅に近いほうの歩道、階段下、デッキ下、デッキが考えられる。北口については歩道部分が考えられる。

- ・ このような場所を利用して、イベント等ができるのではないかと思います。
- ・ 「オープンスペース」は、今説明した場所を想定して書いてある。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 駅の施設関係と駅前広場関係のイベント等での使用のための許可の話も質問があるので、駅管理者からお話をお願いしたい。

【委員】(富士急行)

- ・ 駅そのものは JRさんと富士急行が連結する形にはなるが、駅舎については JRさんに確認しなければならない。
- ・ 先ほどイベント等の紹介があったが、私どもでは河口湖の駅が今年の7月にリニューアルオープンし、リニューアルに伴い、地域の方々に利用していただく場所を設けた。
- ・ よさこいや学生バンドのイベント、近隣住民がフリーマーケットを開いたり、河口湖周辺にある観光施設の宣伝スペースに使っていただいたり、クリスマスに向けては英和大学のハンドベルや、幼稚園の発表の場に利用していただいたり、できるだけ人に集まっていただけのように、年間を通して色々なところに声をかけている。
- ・ 駅に人が集まることで地元の賑わいに貢献したいと思っている。
- ・ 私どもの電車の利用者は、通勤・通学での利用者と、観光に利用する方がいる。その方々に来てよかったと思っただけのような目的も兼ねている。
- ・ 地元の商店街に声をかけて物を売っていただくこともしているし、活用法を考えている。
- ・ 先ほどオープンスペースとして通路やデッキが挙げられたが、JRさんと話し合う中で活用できるならイベント等を年間通して行い、賑わいづくりに繋げられるのではないかと思います。
- ・ 私どもとJRさんとで話し合い、活用できるように努力したい。

【委員長】

- ・ 今日はJRさんはいらしていないのか。

【事務局】

- ・ 欠席である。

【委員長】

- ・ 他に何か意見等があるか。

【委員】

- ・ 富士急行さんにお聞きしたい。駅の駐車場は、旧国鉄から大月市に払下げをされた土地であると思う。今、駐車場からは富士急行線の踏切を通過しないとならない状況であるが、駐車場と線路が走っている敷地は、過去に換地できなかったのか。

【委員】(富士急行)

- ・ 大月市から説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 私も当時いた者ではないので詳しくは答えられないが、過去にそれについて検討した経緯はあるようだ。
- ・ 鉄道の軌道は道路と違い、急激なカーブの線形にはできない。線形の変更を行うことに

より、莫大なコストがかかることから、計画は断念されたようである。

【委員長】

- ・ 構造的には難しいと思われる。
- ・ もし行うこととなれば、大規模な工事になるとと思われるし、コストが見合わないと思われる。

【委員】(富士急行)

- ・ 大月市からご説明いただいたように、当時私どもでも検討したようである。
- ・ 大月駅は線路の途中にある駅ではないので、線形を変えらるとなると、全ての線形の見直しを行うこととなる。
- ・ 莫大なコストとなるため、諦めざるをえなかった。

【委員長】

- ・ 先ほど質問に出たオープンスペースの活用ということも、駅や駅前広場と中心市街地をうまくリンクさせる意味でも非常に重要な課題になってくる。
- ・ それから、本日来ていただいているデザインアドバイザーの清水先生と尾登先生にもご意見いただきたいと思う。駅や駅前広場のオープンスペースをデザインするうえで、どのような活用をイメージされてデザインされたのか、意図する部分を説明していただきたい。いかがか。

【清水】(デザインアドバイザー)

- ・ オープンスペースについては、自由通路は通路部分なので、面的に使うことはできると思うが、積極的に使えるということにはならないと思う。
- ・ 本当は広いスペースのある橋上駅舎にしたかったが、JRさんとの兼合いで難しいという判断になったので、唯一スペースが確保できたのがデッキである。岩殿山が望めて、広場が望める、街が望める場所という位置付けをしている。
- ・ 一番イベントが出来そうだと考えている場所は、南口駅前広場の北西部に屋根を架けているところで、フリーマーケット等のイベントが出来るような形にしている。
- ・ 南口のほうが本来ならば人が多いが、面積をとるのが難しかった。北口のほうだとスペースは結構あるが、どちらかと言うと南口にスペースが欲しいと思うので、人が集まるようなイベントとなると屋根の部分になると思う。広場の東側は階段や身障者用の駐車スペースがあるので、まとまった広さにはならないと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 賑わいづくりという部分での提案等が出ているが、尾登先生からご意見とかご印象でも結構なので、少しコメントしていただければと思う。

【尾登】(デザインアドバイザー)

- ・ 賑わいづくりをするときには、あまり真面目ではいけない。少し不謹慎かもしれないが、適度な不真面目さがないと人が来ない。
- ・ 自由通路に関しても、本来なら線路に対して斜めに架かるというのはありえない。JRさんとしては直角に架けないと認められないが、市と清水先生で頑張っていただき、広場を繋ぐ、広場の一部としての機能を持つ通路となっている。

- ・ 先ほど通路をオープンスペースと説明していたが、ただ線路をまたぐ通路というのではなく、広場同士を結ぶことにより、人の動線が広場を繋げるので、使い方によってはオープンスペースとなりうる。
- ・ 本来の駅は全てオープンスペースである。安全性の面で立入規制等されているが、ヨーロッパでは駅自体がコミュニティそのものとなっている。高速道路のサービスエリアもそうだが、地域の人が集まったりご飯を食べたりして活用している。誰に対しても開放された場所をオープンスペースという。
- ・ 最初は、あまり駅というイメージではなく大月らしいキャッチフレーズを考えたりした。
- ・ 私は JR さんの駅デザインの委員をやっているが、どの駅も似たようなデザインである。JR さんでは駅の中を充実させる流れになってきており、新しい形のオープンスペースを作っている。JR さんとしてはお金も稼げるし、非常に合理的な仕組みになっているが、そのような発想も一方ではある。
- ・ 賑わいについて今までの話を聞くと、色々なイベントを行ってもそれが続かないと大月のイメージが伝わっていかない。だから、一つ全国区になるようなイベントを考えることが賑わいづくりに不可欠だと思う。
- ・ 東京に近く、通過点になりがちな大月において、人々の足を立ち止まらせる要素をいかに盛り込み、全国区になりえるかということを考えるのが先決だと思う。
- ・ 生活者の視点での賑わいづくりを考えることと、一つ全国区となりうるイベントを考えることが大切だと思う。
- ・ 我々も駅のデザインを考えるときに、「大きな月」とか「お年よりが日向ぼっこをする」とか色々な物語を考えましたが、とにかく、住民の方々に参加していただける駅にしたいと思った。
- ・ それから、市外の方々には大月の魅力に浸っていただけるようなところをしたいというのと、理想的にはそれが駅を離れて中心市街地にも浸透していくようになれば良いと思った。
- ・ 既存の駅舎に愛着があるという意見が多いとは思いますが、大月駅の顔は駅舎ではなく、街そのものにあるようにしたいという考えで、宿場町のイメージを取り入れたデザインとなった。
- ・ 賑わいづくりとは「宝探し」だが、一つ全国区になるような「宝」を委員会で検討していただければ良いと思う。

【清水】(デザインアドバイザー)

- ・ 賑わいづくりについてコメントすると、先ほどからお話を聞いていて思ったが、もう少し視野を広げると、駅前だけでなく国道も使えるのではないかと。
- ・ バイパスができたので、一時的にバイパスのみ通行できるようにすれば国道を使うことが可能だと思う。
- ・ そうすると国道で七夕祭等ができるので、全国区となるイベントになりうるかと思う。
- ・ 道をオープンスペースとして考えれば、色々なことが可能になるし、そうして人が集まれば店もオープンしていくこともあり得るのではないかと思う。
- ・ その契機となるためにイベントを行うということでも良いと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ デザインアドバイザーから貴重な意見をいただいた。
- ・ 賑わいづくりに関しては、もう少し遊び心を取り入れながら行ってもいいのではないかと、ということ、駅と駅周辺、20号の活用を含めて自分達が対象とする範囲を広げながら考えていったらどうか、というご指摘だったと思う。
- ・ 来街者を増やしていくための方法としては、大月の「宝」なり、全国区になるようなイベントとあわせ、地域の人々が持続でき、交流できるような地道な賑わいづくりというのも考えてはどうかというご指摘だったと思う。
- ・ したがって、それらのご意見と、これまでのご意見を見ると、資料5の3の「来街者の増加による賑わいづくり（活性化）」という項目では、どんな賑わいづくりの仕掛けが必要かということ、本日の意見を踏まえ、少し再整理し、表現等を改めたいと思う。
- ・ 「大月駅・駅前広場を活用した…」という点では、オープンスペースとの問題であるとか、20号についても書き加えることで、少し視野を広げた形で賑わいづくりを考えるとということにしたいと思う。
- ・ 「少子化・高齢化に対応した…」というのは、障害者の方や色々な地域の方々のきめ細やかなニーズとか、そのためのユニバーサルデザインとかということについて、もう少し具体的に書き込んでいったほうがやりたいことが分かりやすくなると思うので、このあたりも、今日の議論を踏まえ、少し修正させていただければと思う。
- ・ このような形で本日の議論をまとめさせていただきたいがよろしいか。

【委員】

- ・ 色々な方策があって、良いと思うし、楽しくなるのかもしれないが、誰がどうするのかということが非常に見えてこない。
- ・ 例えば、南口駅前広場のイベントができるであろうオープンスペースは、誰がどのような管理をするのが望ましく、それにより計画的かつ定期的にイベントができるようになる、ということに関しては考えていらっしゃるのか、それに対する市からの提案があるのか、市民にアクションを求めるだけなのか、商店街にアクションを求めるだけなのか、誰が主人公となり、賑わいづくりを考えていこうと思っているのか、考えがあるならお聞きしたい。

【委員長】

- ・ それについては今後の議論になる。
- ・ 本委員会は今年度もう一度行うので、本日の議論を整理した中で、ご指摘のとおり色々な方策について、どのような団体が行うのか、市民や商店街でできる施策はどのようなものが挙げられるのか、どのようなところが母体となり、中心的に活動していくのか、あるいはどのようにして市民を巻き込んでいくのか、次回の委員会にて議論したい。
- ・ よろしいか。

【委員】

- ・ はい。

【委員長】

- ・ 今回の委員会でおおよそ意見をいただいたが、もう少し詰めなければならない内容についてはもう一度整理し直し、次回に確認していただきたいと思う。
- ・ そしてまた、次の議論のテーマとして『誰が主体的にやるのか』とか、『枠組みをどのように作るのか』ということを含め、もう少し議論を深めていきたい。
- ・ このようなことから、本日は具体的な意見をいただいたということに留めておくこととするが、よろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ それでは本日の議事を終了したい。

(3) その他

【委員長】

- ・ その他の次回の日程についてだが、事務局からお願いしたい。

【事務局】

- ・ 事務局から提案させていただく。次回の日程は年明けの2月26日(火)の午後、本日と同じくらいの時間で、場所もこの会場で開催したいと思うので、ご審議願いたい。

【委員長】

- ・ それでは、2月26日(火)13:30(予定)ということによろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ 皆様ご多忙だとは思いますが、回数が少ないのでなるべくご出席願いたい。
- ・ 議論が弾まなくなってしまうこともあるので、ぜひご出席ください。
- ・ それでは、本日の議論を終了したい。

4. 閉会